

黒龍江省における対ロシア・モンゴル投資の現状と展望

中国黒龍江省社会科学院北東アジア研究所副所長 笮志剛

改革・開放の深化にともない、中国の総合的な国力は絶えず増大し、企業の実力も日々増大している。特に2000年に中国が正式に「走出去」海外進出戦略を打ち出した後、中国企業による海外投資は、海外駐在事務所の小規模な試みから、大規模な多国籍金融と資源の買収合併まで、世界に向けて次々とブームを巻き起こしている。資源型・技術型・市場型など、中国企業の多様な形式と目的を持つ海外投資の中でも、近年資源型投資が世界の広い関心を集めている。

中国による資源型海外投資のなかで、隣接するロシアとは、歴史的・地理的・人的つながりを生かし、経済貿易を進めるとともに、戦略的な改善も重ねている。2003年に中国が打ち出した「東北振興政策」が突破口となり、黒龍江省では省レベルの八大経済区の建設を起爆剤とし、対外貿易を土台とし、対ロシアとモンゴルの資源型外国投資において著しい発展を遂げた。2009年末までに黒龍江省のロシア企業への投資は267件に達し、累計で総額21.58億ドルの投資額、中国側としては18.14億ドルの投資となり、長年連続して対ロシア投資では一位の省の地位を維持している。また、モンゴルの鉱物資源に対する投資も、浮き沈みはあったものの、1億ドル突破を実現し、投資効率を得るとともに良い社会的反響も得られている。

さらに、全世界的に化石資源など戦略的資源が日々さまざまな課題に直面しているが、中国やインドなど発展を続ける大国においては、持続可能な経済発展の中での資源的な制約がますます目立つようになっている。金融危機後の全世界的な戦略調整と、ロシアやモンゴルなど資源供給国の資源依存型経済成長モデルからの脱却、合理的で有効な資源活用という問題に直面するなかで、黒龍江省の海外投資は投資会社や投資主体の実力不足や資金不足など多くの新たな問題と新たな挑戦に直面するだろう。現在は、ロシア向け投資の戦略調整の過程であり、国内でも第11次5カ年計画を振り返り、第12次5カ年計画を展望する重要な時期である。黒龍江省はロシア・モンゴルなどの国で海外園區と加工基地を建設し、中国の東北振興とロシアの極東開発をさらに深め、「中国東北部とロシア極東・東シベリア地域の協力に関する計画要綱」など国家的な大型プロジェクトを牽引力とし、省レベルでのロシア科学技術・経済貿易戦略の改善ならびに多様な海外投資戦略の実施を一層進めている。外国投資と八大経済区とが緊密に連携し合う

ことにより、投資のハイテク化、プロジェクトの大型化、投資分野の多元化、投資収益の安定が見込まれる。

本稿はデータ、図表および定量的な詳細な分析を通して、黒龍江省の改革開放以降の外国投資の変遷を基本的に検証し、また黒龍江省の外国投資の現状および現存する課題を把握し、黒龍江省による外国投資の将来性に焦点を絞り政策提言を行うものである。

一. 黒龍江省による外国投資の発展

中国南部の経済的に発達した省が比較的早く海外投資を始めたのに対し、冷戦による東西対立や長期にわたる計画経済の影響などの内外的要因により、黒龍江省による外国投資はやや遅れて始まり、またそれは地理的に有利なロシアとモンゴルに大多数が集中していた。黒龍江省による外国投資は改革開放政策とともに、特に「黒龍江省によるソ連の国境貿易と経済・技術協力の問題に関する意見付き回答報告書」という1988年に中国政府が打ち出した黒龍江省を対象とした文書の後から次第に展開を見せ始めた。この文書によりロシアの経済貿易政策に対する支持が明確になったため、黒龍江省はロシアとの経済貿易を素早く展開し、1990年代中期には最初のピークを迎え、当時の黒龍江省によるロシアにおける企業の設立は452カ所に達した。しかしこれらは輸出入貿易の業務が主で、駐在事務所の窓口的な役割がその主要な機能だった。

2001～2004年は、黒龍江省による対ロシアの経済技術協力と投資の急速な発展期であったといえる。中ロ両国の確固たる戦略的協力パートナーシップを背景に、特に中央政府と黒龍江省がそれぞれ出した経済貿易協力に対する様々な有利な政策と措置・施策により、黒龍江省とロシアとの経済貿易協力は非常に速いスピードで発展することとなった。2005年、黒龍江省は「対ロシア経済貿易科学技術協力戦略的レベルアップ戦略」を実施したことにより、ロシア向けの大型プロジェクト協力などの動きが急激に増加した。2005年から2008年には、全省で新設の対ロシア投資プロジェクトが168件ののほり、投資総額は14.9億ドルまでに達した。そのうち、1,000～5,000万米ドルのプロジェクトが24件、5,000万ドル以上プロジェクトが4件であった。投資範囲も、鉱物資源の開発、森林伐採および木材高度加工、不動産開発、軽工業製品の加工、農業栽培などの広い領域に及んでいる。特にエネルギー、原材料への投資協力

表1 黒龍江省の対ロシア貿易・投資発展段階

段 階	対ロシア貿易	対ロシア直接投資	備 考
第一段階	始動段階（1982～1993年）	始動段階（1988～2000年）	
第二段階	調整段階（1994～2000年）	高速発展段階（2001～2004年）	
第三段階	高速発展段階（2001～2004年）	戦略的レベルアップ段階（2005～2008年）	黒龍江省が「対ロシア経済貿易科学技術協力戦略的レベルアップ戦略」を提出
第四段階	戦略的レベルアップ段階（2005～2008年）	ポスト世界金融危機の調整段階（2009年～）	
第五段階	ポスト世界金融危機の調整段階（2009年～）		

（出所）黒龍江省国際経済貿易研究所資料により作成

が重点的に行われており、現在までに黒龍江省はロシアの鉱物資源の開発権利を18件獲得し、うち12件は単独の開発権利で、鉛・亜鉛、銅、マンガンなどのレアメタルの大型原料基地を建設している。対ロシアの電力協力でも徐々に成果がみられており、黒龍江省はすでに黒河などの中口国境地区で3カ所の国際送電線を架設し、2008年末までにすでに累計で44.4億kWhを購入した。2008年末までに行われたロシアのエネルギー・原材料投資プロジェクトは82件で、うち鉱物資源の開発18件、森林伐採20件、木材加工44件、森林伐採権の獲得では1,200万ヘクタール以上、年間伐採量にすると240万立方メートルとなり、これは黒龍江省の森林の半分にあたる面積を国外で保有するのと等しい数字である。

2009年から現在までは、対ロシア投資戦略の調整期といえよう。ロシアの経済発展は金融危機の打撃を受け、黒龍江省からのロシア貿易の発展に対しても影響を及ぼした。しかし金融危機が黒龍江省に対ロシア投資へ新たなチャンスを提供した面もあり、同省による対ロシア貿易の下げ幅の大きさは反対に、ロシアに対する投資は同時期に上昇傾向がみられている。

二. 黒龍江省による外国投資の発展の現状

1. 黒龍江省の対外投資の現状

2003年の中央政府による東北振興政策の実施以降、特に2007年に打ち出された16カ所の国境対外開放の促進および東北地区の対外開放の一層の推進、そして「東北振興計画」など、数々の政策的な利点は黒龍江省による対外投資のさらなる発展の貴重な機会と原動力となった。国家商務部による省市別の国外投資フローおよびストックの表からわかることは、2003年黒龍江省の外国投資は744万ドルで、投資ストックも数千万ドルほどだったが、2005年に黒龍江省が「対ロシア経済貿易科学技術協力戦略的レベルアップ戦略」という措置を実施した後、同省の外国投資はロシア向け投

表2 2003～2009年における黒龍江省対外投資フローおよびストックの推移

（単位：万ドル）

種 類	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
フロー	744	5,645	16,643	21,796	17,851	22,797	77,600
ストック	N/A	13,057	32,672	60,171	71,144	99,353	215,800

（出所）商務部「2008年対外直接投資統計公報」省・直轄市・自治区別資料、黒龍江省商務庁統計資料により作成

資が牽引する形で2005年に初めて1億ドルを突破し、2006年に2億ドルを突破し、2009年には投資フロー、ストックともに歴史的な高水準を達成した。同省の外国投資は2008年に国内の省市別で第10位となり、2009年の世界金融危機とロシア経済の減退は黒龍江省による対ロシア投資にそれほど影響を及ぼさず、外国投資全体としては大勢とは逆行する形で上昇傾向にある（表2）。2009年末までに、黒龍江省の外国投資ストックは22億ドル近くに達し、この年の投資フローは7.76億ドル、投資先はロシア、モンゴル、香港、米国、日本、韓国、インド、ボツワナなど30以上の国に及んでいる。投資分野は、鉱物資源、不動産、森林伐採、木材加工、通信機器、栽培業、養殖業などに及んでいる。ロシアに向けた投資はつねに黒龍江省の外国投資の3分の2以上を占めてきたが、2009年末までに、黒龍江省の共同認可によるロシア企業は267カ所、中国側投資額は18.14億ドルで、投資総額は21.58億ドルとなっている。このなかで、2009年に商務部による認可および記録記載が与えられた新設のロシア向け投資プロジェクトは81件で、契約金額は8.66億ドル、中国側の契約投資額は7.76億ドルに達している。

2. 黒龍江省の対外投資の主要な特徴

(1) 安定的な発展傾向、対ロシア投資の飛躍的発展、海外投資の多元化構造の初期的形成

中国政府による国内企業の「対外進出」戦略への直接的な奨励および地方政府による全面的なサポートの下、黒龍江省企業による外国投資の発展スピードは絶えず加速し、

表3 黒龍江省による外国投資の主要プロジェクト (2010年)

(金額: 万ドル)

順番	投資主体	投資相手国	金額	会社名称	内容
1	北大荒種業集団	フィリッピン・マニラ	220	北大荒「フィリッピン」 農業発展株式有限公司	種子の経営、農業栽培
2	黒龍江省中軟計算機株式有限公司	日本	20	三浦株式会社	計算機ソフト開発
3	ハルピン楽辰科学技術有限責任 公司	米国		薩戈会社への買収	計算機ソフト開発
4	黒龍江省第一地質探査院	マダガスカル	110	龍達資源有限公司	鉱産物探査、発掘及び加工
5	黒龍江省地利投資株式有限公司	米国	500	曹氏株持ち有限公司	不動産開発
6	黒龍江省國中水務株式有限公司	香港	100	國中水務香港有限公司	国内外の水務業務を請負

(出所) 黒龍江省商務庁資料より作成

投資プロジェクトも徐々に増え、特に第11次5カ年計画の期間中には飛躍的な成長を実現した。ロシア、モンゴル、香港への既存の強固な投資基盤に加え、アフリカ、ラテンアメリカなどの新しい投資ルートを開拓し、十分な条件と実力を備えた一部の企業は中国南部の企業と共同・協力して、アメリカや日本などのハイテク産業分野での投資協力を進めている(表3)。

(2) 民間企業による外国投資の比重が大きい

黒龍江省の既存(または進行中)の外国投資プロジェクトを見ると、その主体は依然として民間企業が多数を占めており、国有企業と国有持株企業は比較的少ない。国有企業、あるいは国有企業から制度改革を進めている大型企業グループ、そして多国籍企業グループにとっては、外国投資にかかる過剰なリスクが投資意欲をそぐ要因となっている。このため、黒龍江省の外国投資件数の70%、投資金額の50%が民間企業により占められている。

(3) 対ロシア・モンゴルの投資比重が大きく、資源分野での協力が顕著

黒龍江省はロシア、モンゴルに対して政治、経済、地理、文化歴史などの面で緊密な関係を持っている。第11次5カ年計画期には、両国とも黒龍江省の主要な外国投資先となっている。投資規模からみても、同省はロシアとモンゴルに対し、石油、天然ガスなどの資源開発類、森林伐採、農業土地請負などの分野における投資が省の外国投資の95%を占めており、特にロシアの資源開発類、林業、農業に対する投資が大半を占め、今後もこの傾向が続くであろう(表4、表5)。

(4) 資源開発型外国投資の強化、企業買収合併の進展

黒龍江省による資源開発関連への外国投資が拡大すると

表4 2004～2009年における黒龍江省の対ロシア投資(年度・分野・地域別)

投資年度による区分				単位: 万ドル
投資年度	企業数	契約ベース 金額	中国側による契約 ベース投資額	
2004	4	397.8	281.25	
2005	31	13,651.38	11,531.13	
2006	31	14,401.10	12,906.63	
2007	55	21,189.97	16,910.97	
2008	65	80,607.21	73,181.72	
2009	81	86,609.01	77,633.91	
投資分野による区分				単位: 万ドル
投資分野	企業数	投資総額	中国側の出資額	
林業	153	137,284.69	125,372.53	
鉱産物資源開発	23	41,336.39	38,093.39	
農業開発	23	6,153.2	5,854.8	
加工貿易	26	8,139.9	5,561.72	
域外大市場	2	2,250	2,250	
その他	8	6,083	3,082	
投資地域による区分				単位: 万ドル
地域分布	企業数	投資総額	中国側の出資額	
沿海地方	85	38,818.3	28,771.01	
ハバロフスク地方	54	29,244.95	21,991.65	
アムール州	43	21,202.47	17,981.73	
ユダヤ自治州	30	90,484.08	8,323.98	
ザバイカリエ地方	21	82,782.55	81,960.38	
サハ共和国	5	4,845.63	3,825.63	
サハリン州	5	812	704	
マガダン州	4	2,568	2,568	
クラスノヤルスク地方	4	1,140	1,140	
モスクワ	2	1,412	1,412	
イルクーツク州	2	1,180	650	
スヴェルドロフスク州	2	400	360	
トゥヴァー共和国	1	19,822.44	19,822.44	
トムスク州	1	2,000	2,000	
オムスク州	1	311.57	183	
スヴェルドロフスク州	1	135	135	
チェリャビンスク州	1	110	104.5	
オムスキ州	1	80	80	

(出所) 黒龍江省商務庁資料より作成

表5 近年の黒龍江省による対モンゴル投資プロジェクト一覧

種類	プロジェクト名称	プロジェクト内容
対モンゴル投資	黒龍江省鋳業集団公司「バヤンゴル」鉄鋳プロジェクト	炭鋳面積3,383ヘクタール、鉄鋳石埋蔵量1.1億トン。
対モンゴル投資	黒龍江省鋳業集団公司「トモトルゴイ」鉄鋳プロジェクト	炭鋳面積424ヘクタール、鉄鋳石埋蔵量2,480万トン。
対モンゴル投資	黒龍江省国際公司モンゴル「トモルト」鉄鋳プロジェクト	200万トン優質塊式炭鋳、2006年9月までに、国内搬送量が17万トン、ストック56万トン。
対モンゴル投資	大慶「タムサグ」有限責任公司モンゴルでの石油探査プロジェクト	—
対モンゴル投資	ハルビン発電設備集団公司による実施したモンゴル「ツァイダンヌル」石炭・電気一体化プロジェクト	—
対モンゴル投資	大慶によるモンゴル油田開発建設一体化サービスプロジェクト	—

(出所) 黒龍江省発展改革委員会資料より作成

同時に、先進国のハイエンド産業に対する投資においても大きな進展がみられる。2005年3月、同省ハルビン市政府の全面的な支援のもと、「ハルビン量具刀具集団有限責任公司」が950万ユーロを出資し、世界的有名ブランドのドイツの計器・刃物メーカー「Kelch」を買収し、「Kelch & Links (凱獅子林克斯公司)」と改名した。2007年に新会社は赤字から黒字に転じ、経営に成功している。「ハルビン量具刀具」による「Kelch」の買収は先進国の中核的な生産技術の国内移転や国際ハイエンド技術との結びつきが実現したばかりではなく、「ハルビン量具刀具」が「Kelch」のブランドで国際競争に参入するという大きな意義を持つ。これにより技術的には15～20年の遅れを短縮させ、同省ないし全国的にも、装備製造業企業による海外企業の買収・合併経営の成功例となった。

三. 黒龍江省による外国投資における主な課題

1. 民間資本の不足、脆弱な外国投資主体

黒龍江省による外国投資の制約となっているのは、特に対ロシア投資の大きな要素の一つである投資主体の民間企業の実力の脆弱性、外国投資を行う企業への金融的サポートおよび保証制度の不備、国外における融資難、といった課題が存在する。ロシアやモンゴルに対しては、国有企業が戦略的資源開発への投資について警戒心を強めていることから、投資主体は資金力が比較的弱く経営構造も単一な民間企業に限られている。今後は、黒龍江省の民間企業の

資源統合が速やかに行われ、国有企業と民間企業の協力関係も調整しなければならない。経済発達が進む沿海地域の資本を東北部へ導入するほか、「三江」(黒龍江省・浙江省・江蘇省)、「龍滬」(黒龍江省と上海市)、「龍港」(黒龍江省と香港)、「龍魯」(黒龍江省と山東省)などの地域間協力の枠組みを利用し、対ロシア経済協力の新局面を開拓すべきである。さらに、政府による特定プロジェクトの資金援助などの政策的サポートも必要であろう。

2. 投資業種・地域の過度な集中がもたらす投資リスク

2008年の世界金融危機により黒龍江省の対ロシア貿易は大幅に減少したが、これは過度にロシア貿易に依存しており、外国投資のなかでも極端にリスクがロシアに集中していたことがすでに明らかになっている。経済悪化によるリスクが拡大し、二国間貿易も大幅に減少した。そのため、外国投資を行う黒龍江省の企業も苦境に立たされた。黒龍江省による海外投資の地理的・業種分布からみると、ほとんどの投資がロシアとモンゴルに集中しており、その多くが林業伐採、エネルギー鋳物、農業開発と栽培業、木材加工などの分野に集中している。とりわけ、ロシア東部などの伝統的に資源が豊富な地域に集中している。

3. 対ロシア・モンゴルなど外国投資における効果的な投資保障制度の欠如

黒龍江省の企業はロシアとの交流が多く、また森林や鋳山の伐採・採掘権を優先的に取得できるといふ優位性を持つものの、ロシア市場の体制的不備のため法的制度は健全とはいえ、投資政策も頻繁に変化し、政策的調整が与える打撃は大きく、政治的要素が投資運用の妨げとなっている。また審査許可のプロセスは複雑で、行政サービス効率の低下などの要因が対ロシア投資への長期的投資を不足させており、関連の政治・外交・法律および社会的なリスクが増大している。また、中国側も自身の文化や法律についての理解が十分でなかったり、投資対象国の社会・法律的環境に対する系統的な理解に欠けており、こうしたことが原因となり、入念な対策も不足がちになり、結果的に不利な結果を招くこともあった。モンゴルも豊富な資源を背景とする外交に重点を置くようになってきており、黒龍江省を含めた海外企業に対する投資制限は厳しくなっており、投資に失敗するケースも増えてきている。

4. 企業の海外投資の経験不足、国有企業によるハイリスクな投資への意欲の低下

多くの黒龍江省の企業にとって海外投資は新たな取り組

みであり、海外進出をはかろうとする多くの企業は非常に慎重になっているために経験不足に陥り、困難と課題が増している。さらに黒龍江省は国有企業の占める割合がかなり大きく、構造改革や制度改革を経てすでに海外投資の実力を持つ企業グループも一部にはあるものの、その意欲はそれほど強くはないのが現状である。一方、民営企業の多くも投資対象の国に関連した投資経営、輸出入業務、雇用などにおいての法律や政策に関してそれほど理解していない場合がある。現地の文化や民俗に対する理解が不足している他、不十分な情報把握、多国籍経営の人材不足、また海外駐在の大使領事館による企業に対する海外投資サービスの機能も相対的に弱く、民営企業の海外投資に対する管理不足などの現象等がみられる。これらすべてが、黒龍江省企業の海外投資規模の拡大と持続可能な発展を深刻に制約する要因となっている。

四. 黒龍江省による海外投資の発展についての展望

1. 実質的な基盤および大きなポテンシャル

(1) 海外投資を支える農工業の基盤および迅速な経済発展

2009年黒龍江省のGDP総量は8,288億元で11.1%の増加となり、全国的レベルよりも2.4ポイント上回るかなり良い成長を遂げた。同期の固定資産投資の増加率も40%まで達し、全国平均よりも9.5ポイント高く、食糧生産量は435億キロにのぼった。これは歴代で最も良い生産高で、商品化率は60%以上と全国トップの数字で、国家の重要な食糧生産区と商品食糧生産の基地となっている。金融危機が対外貿易を大幅に減少させた困難な状況下でも、依然として全国的には対ロシア貿易の第1位の省としての地位を維持している。黒龍江省には十分な工業的基盤があり、科学技術を支える力も備えており全国的にも重要な地位を維持している。701箇所もの各種大学および科学研究機関などを擁し、各種専門技術者は120万人近くにもほり、科学技術の総合的实力は国内10位に位置し、科学技術の人的資源は国内7位に位置する。インフラも十分に整い、鉄道営業総距離は全国でもトップであり、国際空路については北東アジア各国に直行便が運行している。これらの要素が支えとなり、黒龍江省の海外投資に共に利益をもたらすメカニズムが将来的に形成される。

(2) 地理的優勢・物流通路による対ロシア・モンゴル投資の向上

黒龍江省は北東アジアの内陸に位置し、北部と東部はロシアに隣接し、水陸の国境は3045キロメートルにおよんでいる。西部は内モンゴルと隣接しモンゴルに直通し、東は

ロシア、日本、韓国、朝鮮などとの国と結びついている。25箇所の国家一級の港を有し、中国の国境開放の大省である。河川と海との連絡輸送、陸海の連絡輸送は省内にロシア、日本、韓国の貿易と物流の通路を形成している。日本海の航路および同省東部の国境鉄道につながり、チチハル～満洲里までの旅客専用線、同江鉄道大橋、古蓮～洛河古河鉄道などの総投資は1000億元を越し、黒龍江省の対ロシア鉄道建設により黒龍江省はロシアに到達する四番目に大きな通路となるだろう。また国境開放の大規模な流れのなかで、海上・陸上から海上に通じる黒龍江省の国際物流通路のメリットもきわめて際立っている。これらすべてが同省の海外投資協力の発展が迅速に進む要因となっている。

(3) 国家重視型の投資、中口の政府間協力プーム、大型プロジェクト等相互投資の推進

2009年4月、中国政府は正式に黒龍江省の綏芬河総合保税区の計画ならびに面積1.8平方キロメートルの保税區設立を許可した。綏芬河は黒龍江省とロシア、日本、韓国そしてヨーロッパにつながる北東アジア地区の5つのゴールデンルートの中でも最も迅速で潜在力を秘めた最大の陸海連絡輸送通路であり、これにより今後は同省がロシアや日韓に対する直接海外投資の拡大が期待できる。2009年6月、胡錦濤総書記は黒龍江省を視察した際、以下のような指摘をしている。「黒龍江の北東アジアの内陸の中心地というメリットを十分に生かしながらロシアとの経済貿易協力を推進すれば、黒龍江は我が国の国境開放にとって真に重要な橋頭堡と枢軸になるだろう」。これらのことは、中国政府が黒龍江省による国境の対外開放がもたらす利益を重視していることを非常によく表している。

2009年はさらに中口関係の歴史上最も良好な一年であり、両国は「中口投資協力計画要綱」「中国東北部とロシア極東・東シベリア地区の協力に関する計画要綱」など多くの文書に署名し、計画要綱の200あまりもの協力プロジェクトの中では、中国側に関連するものが111件、そのうち黒龍江省に関連するものは30件以上にもほっている。両国はすでに黒河と同江鉄道大橋建設などの重点物流プロジェクトに基本的に合意して、ヘイシャーズ島の共同開発、中口協力のモデル地区建設のほか、両国の石油パイプライン敷設工事では2011年1月に石油供給を開始する予定である。2005年から現在までに、両国は連続して5回の中口極東投資促進会を開催し、エネルギー、林業などの協力について多くの大型プロジェクトに署名してきた。これらの国家レベルの協力により、黒龍江省の対ロシア投資が広領域や方向性を持った発展が強力に推進されるだろう。

(4)対ロシアの経済貿易・歴史文化の協力における黒龍江省のメリット

地政学的な利点以外にも、黒龍江省はロシアとの経済や貿易では悠久の歴史を有し、人々の交流も頻繁で、国境を接する地域住民同士の感情も深く国境地区特有の利点を持つ。300年以上もの前にすでに同省ではロシアと密接な人々と経済・貿易の往来が確立されており、綏芬河港は百年の港と称されている。1920年代には二十数万のロシア人がハルビンに移り住み、1950年代には千人にのぼるソ連の専門家たちが同省の重点的建設を進めるために支援していたこともある。両国が国境を開放してからは、黒龍江省は25箇所の国家第一級の港があり、その圧倒的多数はロシアと接するものである。同省のロシア語人材の人数も全国トップであり、毎年ロシアとの間の人的交流ものべ百万人を上回り、国際結婚の件数も絶えず増加している。こうしたこともあり、黒龍江省がロシア投資を行うにあたり、肉親同士の交流や人脈と人材が取り持つ交流も共有されるようになっていく。

2. 将来的な発展の趨勢

(1)黒龍江省による北東アジアの地域協力と海外投資の発展の促進

同省は危機への適切な対応や地域協力の深化をめざし、2008年から黒龍江省は北東アジア経済貿易開発区構想を打ち出し、「八大経済区」の建設計画の中に組み入れられる見通しである。北東アジア地域協力をより深められれば、国家のエネルギー安全、食糧安全、経済安全および国防安全な予備基地として同省の位置づけは更に顕著になり、東北振興政策の中で発展が比較的停滞している同省の難題を直接に解決することができる。同省は北東アジア各国のエネルギー戦略の備蓄基地、国際的な森林伐採、糧食生産基地、有機食品の輸出加工基地となるだろう。そして北東アジア各国との貿易の大通路、観光レジャー地、加工基地、労務輸出地とのつながりもできるようになる。上述の目標実現に向けても、ロシア、モンゴル、日本、韓国など周辺国家に対する海外投資は今後促進されるだろう。

(2)ロシアへの投資をめぐる機会の増大

中国の国民経済が迅速に発展を維持していることに伴い、エネルギーなどの資源性製品の輸入量も速いスピード

で増大するだろう。中東、アフリカ、ラテンアメリカなどのエネルギー輸入ルートを多角的に開拓するとともに、ロシアへの投資を利用した中国のエネルギー供給の確保と拡大、これが同省の対ロシア投資で今後力を注ぐべき方向性である。ロシアが2009年に出した「ロシア連邦の2030年までのエネルギー戦略」の中では、「エネルギー供給が拡大しているアジア太平洋市場をターゲットとし、アジア太平洋地域がロシアのエネルギー産業の発展の新しい成長点になるだろう」と述べているが、これは黒龍江省にとってもロシアのエネルギーを中心とした海外投資に対して明らかな機会をもたらす。

(3)海外投資の将来的な潮流—多角化とより多くの追求

ロシア貿易とロシアとの国境投資へ過度な依存は、黒龍江省による海外投資リスクを増加させることとなるものの、ロシアやモンゴルの資源を中心とした投資の強固なベースの上に、省内の資源型都市の持つエネルギー地質探査の技術的なメリットを利用すべきである。これについては、アセアンやアフリカのなどの国々とともに地質探査に関する協力を図る必要性もある。さらに、「ハルビン量具刀具」がドイツの「凱獅」の買収合併を成功させ、欧米や日本など先進国に向けた先進技術と販売ネットワーク獲得を目標に海外投資をしたケースも参考にしながら、海外に投資市場を求め、資源を求め、ハイテクノロジーなどの戦略を追い求めるという、三者が一体となった構造の確立も必要である。

参考文献

1. 「中国統計年鑑」2009、2010年版
2. 「2009年中国対外直接投資公報」
3. 「黒龍江省統計年鑑」2009、2010年版
4. 「2009黒龍江省国民経済・社会発展統計公報」
5. 「2010黒龍江省国民経済・社会発展統計公報」
6. 「2009年黒龍江省資俄投資基本情況及特点分析」2010年2月1日
7. 「黒龍江省対俄远东地区投対合作問題研究」『西伯利亚研究』2007年第3期
8. 「黒龍江企業対俄千億投資風險高」2007年3月14日付（東北ネット）

The Current Status of and Future Prospects for Investment into Russia and Mongolia in Heilongjiang Province

DA, Zhigang

Deputy Director, Northeast Asia Research Institute,
Heilongjiang Provincial Academy of Social Sciences

Summary

After the Chinese government launched its "Going-Out Strategy" in 2000, the overseas investment of Chinese firms, with objectives such as the securing of resources, the acquisition of technology, and the expansion of markets, has been increasing rapidly. Within this, regarding Heilongjiang Province which is close historically and geographically to Russia and Mongolia, the investment into Russia and Mongolia centered on the utilization of resources has been expanding. As of the end of 2009, the number of Heilongjiang Province firms investing into Russia had reached 267, and by total cumulative investment it is the province making the largest investment in Russia within China.

Meanwhile regarding Heilongjiang Province's overseas investment, there are problems such as the weakening of investment itself and the shortage of investment funds. Subsequently, the developing is required of a multifaceted overseas investment strategy, at the same time as planning a diversification of investment, including the construction of industrial parks and processing bases in Russia and Mongolia, and while aligning China's Strategy of the Revitalization of the Northeast Old Industrial Base with Russia's development of its Far Eastern region.

In this paper, by means of quantitative analyses, etc., I have elucidated the trends in overseas investment in Heilongjiang Province since reform and opening, the characteristic features thereof, and the problem points, and analyzed the prospects for the future.

[Translated by ERINA]